

森美術館10周年記念展

《開幕》アンディ・ウォーホル展：永遠の15分

2014年2月1日(土)–5月6日(火・休) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

ミスター・ポップ・アート、国内史上最大の回顧展

森美術館は、2014年2月1日(土)から5月6日(火・休)まで、「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」を開催します。

アンディ・ウォーホル(1928-1987年)は、消費社会と大衆文化の時代を背景に、ジャンルを超えたマルチクリエイターとして活躍した20世紀後半を代表するアーティストです。「キャンベル・スープ缶」など日用品を主題にしたシリーズや、「スターの肖像」シリーズなどシルクスクリーンで大量に複製できる絵画は、美術界に大きな衝撃を与えました。

本展は、20世紀アメリカの世相を体現したかのようなウォーホルの作品を、初期から晩年まで包括的に紹介する、日本では過去最大となる回顧展です。アンディ・ウォーホル美術館(米国、ピッツバーグ)の所蔵品から、絵画、シルクスクリーン、ドローイング、フィルム、彫刻、写真など、約400点の作品を展示します。さらに、「タイム・カプセル」と称した箱に収められた、ウォーホルの私的な書簡、雑誌や新聞の切り抜き、写真などの中から、日本に関する資料を含む約300点を公開します。

タイトル「永遠の15分」は、「将来、誰でも15分間は世界的な有名人になれるだろう」というウォーホルの有名な言葉に由来します。彼の生きた時代は、長い歴史から見れば短い時間だったかもしれませんが、その影響は現在、そして今後も永遠に続いていくと言えるでしょう。



左
《マリリン・モンロー(マリリン)》
1967年
紙にスクリーンプリント
91.4 x 91.4 cm
アンディ・ウォーホル美術館蔵
© 2013 The Andy Warhol Foundation
for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights
Society (ARS), New York
Marilyn Monroe™; Rights of Publicity
and Persona Rights: The Estate of
Marilyn Monroe, LLC
marilynmonroe.com

右
《キャンベル・スープI :チキン・ヌードル》
1968年
紙にスクリーンプリント
88.9 x 58.7 cm.
アンディ・ウォーホル美術館蔵
© 2013 The Andy Warhol Foundation
for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights
Society (ARS), New York

アジア巡回展

「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」は、BNYメロン特別協賛、クリスティーズ、The Economist協賛、ブルームバーグL.P.メディア協賛により、シンガポール(2012)を皮切りに、香港、上海、北京を経て東京に巡回するものです。最終会場となる東京では、森美術館とアンディ・ウォーホル美術館の主催により、展示作品の追加や企画の再構成をおこない、森美術館オリジナルのものとなります。

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニング センター内)



アンディ・ウォーホル (1928-1987年)

1928年8月6日、アメリカ合衆国ペンシルベニア州ピッツバーグで、スロバキア東部からの移民の三男として誕生。消費社会と大衆文化の時代を背景に、商業デザイナー、画家、音楽プロデューサー、写真家、映画制作者、そして社交家と多面的な顔をもち、あらゆるメディアとジャンルを超えてマルチクリエイターとして活躍した、20世紀後半を代表するアーティスト。トレードマークの銀色のカツラと黒いサングラスの奇抜な風貌で、当時の社交界のスターとなり、日本でも大きな人気を博した。

《自画像(髪が逆立ったかつら)》 1986年 ポラロイド・ボラカラーER 10.8 x 8.6 cm アンディ・ウォーホル美術館蔵
© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York

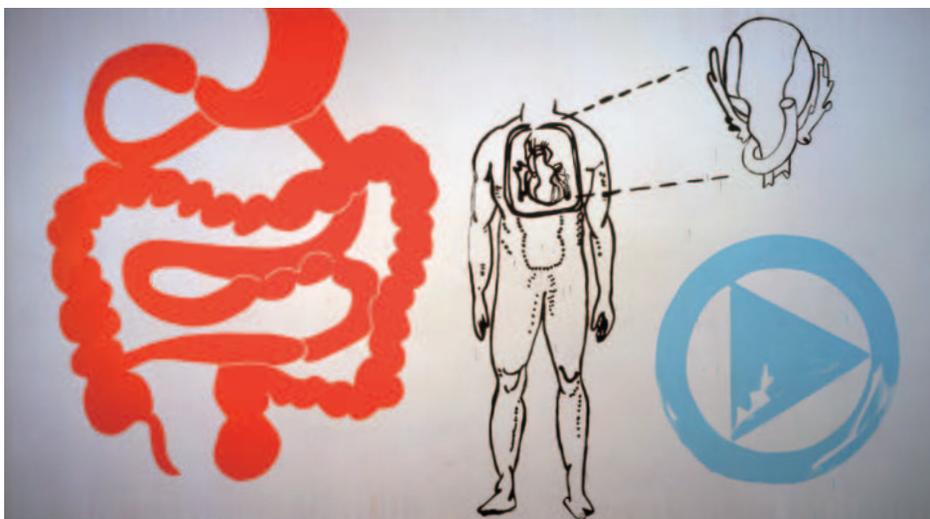
本展のみどころ

【1】日本で開催されるウォーホル展では、作品点数過去最大、日本初公開の大型作品も展示

日本では約20年ぶりの大回顧展。アンディ・ウォーホル美術館の膨大な所蔵品から、作品約400点に加え、ウォーホルの私的な書簡、雑誌や新聞の切り抜き、写真など約300点を一挙に公開する本展は、日本における史上最大のアンディ・ウォーホル展となります。作家の主要シリーズを網羅した本展はウォーホルを知らない人には「入門編」に。また、《人体図》など日本初公開の作品も多数含まれるので、ウォーホル通にとっても、新たな発見のある展覧会となります。

【2】伝説の「シルバー・ファクトリー」を体験型空間として再現

「スターの肖像」シリーズなど、ウォーホルの名作が生まれたほか、当時のアンダーグラウンド・カルチャー・シーンの拠点としても重要であったニューヨークのスタジオ、通称「ファクトリー」。中でも東47丁目231番地のスタジオは、内部が銀色のアルミフォイルで装飾されていたため「シルバー・ファクトリー」と呼ばれました。本展ではこの「シルバー・ファクトリー」を、ほぼ原寸大で再現。実験性に溢れハブニングに満ちた、ウォーホルの「日常」を感じることができる空間が登場します。



《人体図》 1985年
麻にアクリル、シルクスクリーン・インク 294.6 x 538.5 x 5.1 cm
アンディ・ウォーホル美術館蔵
© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York



ビリー・ネーム
《シルバー・ファクトリーで花の絵画を並べているアンディ・ウォーホル》
1967年 ゼラチン・シルバー・プリント
Photo © Billy Name

プレスリリース お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F (ユース・プランニング センター内)

【3】映像作品約25点を、迫力ある展示空間で上映

ウォーホルは1963年から数多くの実験的映像作品を制作しました。本展では代表作《エンパイア》をはじめ、日本未公開作品を含むこれらの映像作品約25点を、約15面のスクリーンを使ったダイナミックな展示方法で上映します。



《エンパイア》 1964年
16mmフィルム(モノクロ、サイレント)
8時間5分(1秒16フレーム)
アンディ・ウォーホル美術館蔵
©2013 The Andy Warhol Museum, one of the Carnegie Museums of Pittsburgh. All rights reserved.

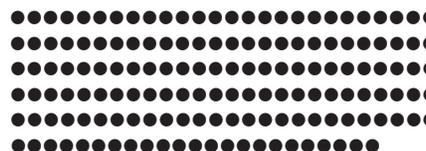
【4】「タイム・カプセル」から、日本に関する資料を本邦初公開

本展では、「タイム・カプセル」と称した箱に集積された、ウォーホルの私的所有品も展示。とりわけ1974年ウォーホルの来日を機に収集された、日本に関連する品々に焦点を当て展示します。

【5】幻の大作《レイン・マシン》が登場

1970年大阪万博のアメリカ館で発表されたもののその後廃棄され、また当時の展示記録がほとんど残っていないため詳細が謎に包まれた幻の大作《レイン・マシン》。本展では、この作品の再制作を展示します。

*《レイン・マシン》の展示は3月1日(土)~5月6日(火・休)、「アンディ・ウォーホル・カフェ」(六本木ヒルズ森タワー 52階 東京シティビュー内)となります。



プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F (ユース・プランニング センター内)

セクション

1. アンディ・ウォーホルのポートレート：ウォーホルとは誰なのか？

体が弱く内向的だったという少年時代や商業デザイナーとして活躍した時期から、アーティストとして成功を収め87年に他界するまで、ウォーホルのポートレート写真や、肖像画は多数残されており、その中で見せる彼の姿は多種多様です。本展の冒頭では幼年期から晩年までのウォーホルのポートレートを一堂に展示します。

《自画像》 1986年
麻にアクリル、シルクスクリーン・インク
203.2 x 193 cm
アンディ・ウォーホル美術館蔵

© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York

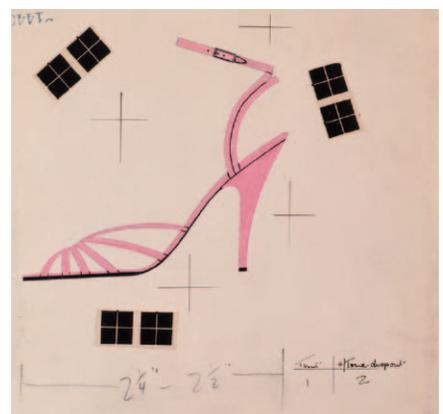


2. 商業デザイナーとしての成功：1950年代

ウォーホルは1949年に大学を卒業し、生まれ故郷のピッツバーグからニューヨークに出て広告業界で仕事を始めました。ファッション誌『ヴォーグ』『グラマー』や、シューズ・メーカーの広告のイラストレーションを手掛け、たちまち商業デザイナーとして成功を収めます。当時、ウォーホルが多用したドローイング技法「プロットド・ライン」（しみつきの線）は、反復や転写による複数生産を可能にし、その後のシルクスクリーン作品の原点となりました。

《サンダル》 1950年代
ストラスモア紙にインク、鉛筆、テンペラ、テープ 17.5 x 18.1 cm
アンディ・ウォーホル美術館蔵

© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York



3. 「アーティスト」への転身：1960年代

ウォーホルは1960年代になると、商業デザインから脱却しアーティストとして独自の表現を模索します。既存の写真や、シルクスクリーンでキャンバスに転写するという技法を考案してからは、新聞や広告などのマス・メディアから切り取ったイメージを、この技法で大量に作品化していきました。キャンベル・スープやコカ・コーラといった大量消費社会を象徴するイメージを主題にした作品や、マリリン・モンロー、エリザベス・テイラーやエルヴィス・プレスリーなどを描いた「スターの肖像」シリーズ、自殺や事故といった主題を取り扱った「死と惨事」シリーズを生み出したのもこの時期です。

《花》 1964年
麻にアクリル、シルクスクリーン・インク、鉛筆 121.9 x 121.9 cm
アンディ・ウォーホル美術館蔵

© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York



プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F (ユース・プランニング センター内)

4. シルバー・ファクトリー

ウォーホルのニューヨークのスタジオは「ファクトリー」と呼ばれ、工場で製品が大量生産されるがごとく、多数のアシスタントによる作品制作が行われました。中でも、1964年～68年、東47丁目231番地のスタジオは、内部が銀色のアルミフォイルで装飾されたため「シルバー・ファクトリー」と呼ばれました。本展ではこの銀色の装飾の考案者で、写真家のビリー・ネームの協力を得て、彼が撮影したオリジナルの写真をもとに、「シルバー・ファクトリー」の空間を部分的に、ほぼ原寸大で再現します。

5. ビジネス・アートとセレブリティ：1970年～80年代Ⅰ

商業デザイナーからファイン・アーティストへの転身を図ったウォーホルは、70年代に入ると「ビジネス・アートは、ファイン・アート(美術)の次にくる段階だ」と確信し、「ビジネス・アーティスト」としての地位を築きました。特にシルクスクリーンで制作された「注文肖像画」シリーズは、当時すでに高額になっていたウォーホルの絵画と比べると、比較的手頃な値段で発注できたこともあり、アメリカの映画スターや財界の有名人、ミュージシャンなどから驚異的な数の注文を受けました。当時人気を博したナイトクラブ「スタジオ54」などで有名人たちとの交流を重ね、一躍ニューヨークの社交界の花形となったこの時代は、ウォーホルが名声とグラマーを追求した時代だったと言えます。



《坂本龍一》 1983年
麻にアクリル、シルクスクリーン・インク
101.6 x 101.6 cm アンディ・ウォーホル美術館蔵
© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York

6. 多様化と反復：1970年～80年代Ⅱ

世界的なアーティストとしての名声を手に入れたウォーホルは、70年代から80年代にかけて、より広範囲な制作活動を行うようになります。ポピュラーカルチャーを題材とする雑誌『インタビュー』の出版、「アンディ・ウォーホルTV」などのテレビ番組の制作を手掛けたのもこの時期です。また、ジャン＝ミシェル・バスキアやキース・ヘリングといったアーティスト達との共同制作を行ったほか、絵画の主題も政治的なものや社会問題から抽象的なイメージに到るまで、多岐にわたりました。また再び、大量消費社会を象徴する企業のロゴや広告を主題としたシリーズも手がけました。



ジャン＝ミシェル・バスキア、アンディ・ウォーホル
《コラボレーション(ドル記号、私を踏みつけるな)》
1984-85年
麻にアクリル、シルクスクリーン・インク、オイル・スティック
50.8 x 40.6 cm アンディ・ウォーホル美術館蔵
© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York
© 2013 The Estate of Jean-Michel Basquiat / ADAGP, Paris / Artists Rights Society, New York

プレスリリース お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニング センター内)

7. 実験映画とビデオ

ウォーホルは1963年に16mmフィルムのカメラを入手し、60年代後半までに、数多くの実験的映像作品を制作しました。1965年には「画家廃業宣言」も行ない、映画制作に没頭したといわれています。その代表作には、ニューヨークのエンパイア・ステート・ビルを夕暮れから深夜まで定点撮影した、8時間の映像作品《エンパイア》や、「ファクトリー」の訪問者をそれぞれ約3分間ずつ撮影した「スクリーン・テスト」のシリーズがあります。

8. タイム・カプセル

ウォーホルは1974年頃から「タイム・カプセル」と称して、毎日の生活で目にするあらゆるものを、ダンボール箱に保管していました。書類や手紙、雑誌や新聞の切り抜きから招待状や個人的なメモ、他人からもらったものまで、それらのアーカイブ資料には、ウォーホルの日常と当時の世相が凝縮されています。1974年、ウォーホルは大規模な個展開催のため来日しますが、その前後に発行された日本の出版物や複製の浮世絵や足袋も、「タイム・カプセル」には収められています。



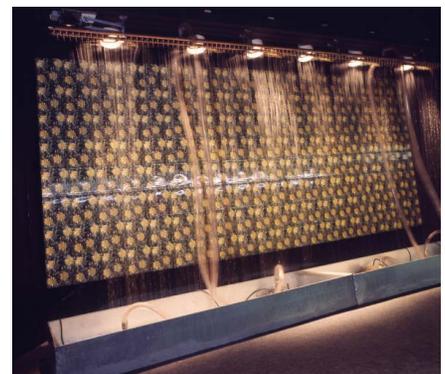
《タイムカプセル102》とその内容物
資料各種

アンディ・ウォーホル美術館蔵

© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York

9. レイン・マシン

ウォーホルは1970年大阪万博のアメリカ館で《レイン・マシン》という作品を発表しました。レンチキュラーレンズにより立体加工されたひなぎくの花の写真が柵目状に並ぶ壁の前に人工の雨を降らせるものです。当時、ロサンゼルス・カウンティ美術館が推進していた、最新技術とアートの融合を目指すプロジェクト「アート&テクノロジー・プログラム」の一環として本作は制作され、一足先に大阪万博でお披露目されました。しかし万博終了後、劣化より廃棄され、万博での展示記録はほとんど残っていないため、詳細は謎に包まれています。本展では、この幻の大作の再制作を展示し、日本における本作についての更なる研究を呼び掛けます。



*《レイン・マシン》の展示は3月1日(土)~5月6日(火・休)、「アンディ・ウォーホル・カフェ」(六本木ヒルズ森タワー 52階 東京シティビュー内)となります。

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F (ユース・プランニング センター内)

展覧会開催概要

タイトル: 森美術館10周年記念展「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」

会期: 2014年2月1日(土)～5月6日(火・休)

会場: 森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

企画: ニコラス・チェンバース(アンディ・ウォーホル美術館ミルトン・ファイン・キュレーター)、近藤健一(森美術館キュレーター)

アジア巡回展

主催: アンディ・ウォーホル美術館(カーネギー・ミュージアム群[ピッツバーグ]所属)

特別協賛: BNYメロン **協賛:** クリスティーズ、The Economist

メディア協賛: ブルームバーグL.P.

東京展

主催: アンディ・ウォーホル美術館、森美術館 **共催:** NHKプロモーション、読売新聞社

協賛: ビー・エム・ダブリュー株式会社、伊藤忠商事株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社きんでん、株式会社大林組、パナソニック株式会社、三建設備工業株式会社

助成: アメリカ合衆国大使館 **制作協力:** デジタルハリウッド(専門スクール)、株式会社 TAKAMURA

協力: 日本貨物航空株式会社、シャンパーニュ ニコラ・フィアット、ボンベイ・サファイア

開館時間: 10:00-22:00 | 火10:00-17:00 | *2月11日、4月29日、5月6日の火曜日は22:00まで

*4月19日(土)は、「六本木アートナイト 2014」開催に伴い翌朝6:00まで *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料: *表示料金の消費税込 *本展のチケットで「MAMプロジェクト020:ガブリエル・アセド・ベラルデ」展にも入館可

• **「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」:** 一般1,500(1,300)円、学生(高校・大学生)1,000(900)円、子供(4歳-中学生)500(500)円
展望台 東京シティビュー、スカイデッキへは別途料金がかかります。()は前売り料金。

• **展望台 東京シティビューとのセット券:** 一般2,500円、学生(高校・大学生)1,800円、子供(4歳-中学生)800円
*スカイデッキへは別途料金がかかります。

• **「ラファエル前派展」とのセット券:** 一般2,500円、学生(高校・大学生)2,000円、子供(4歳-中学生)800円

*「ラファエル前派展」は、2014年1月25日～4月6日まで森アーツセンターギャラリーにて開催 *展望台 東京シティビュー、スカイデッキへは別途料金がかかります。

お問い合わせ: TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

?! パブリックプログラム

■ シンポジウム

「ウォーホルと日本」 *日英同時通訳付

アンディ・ウォーホル美術館館長のエリック・シャイナー氏と、生前のウォーホルと交流を持った美術家の横尾忠則氏を迎え、今なお輝き続けるウォーホルの芸術の本質と革新性について、日本との関連性に焦点を当てつつ、本展を担当したキュレーターと語り合います。

出演: エリック・シャイナー(アンディ・ウォーホル美術館館長)、横尾忠則(美術家)、

南條史生(森美術館館長)、近藤健一(森美術館キュレーター)

日時: 2014年3月23日(日) 14:00-17:00(開場13:30)

会場: アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員: 300名(要予約)

料金: 一般1,000円 MAMCメンバー無料

主催: 森美術館 **助成:** アメリカ合衆国大使館 **協力:** アカデミーヒルズ

*手話同時通訳をご希望の方は、3月13日(木)までに ppevent-mam@mori.co.jp までご連絡ください。



エリック・シャイナー



横尾忠則

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当: 池袋、高橋、原田

TEL: 03-6820-8105 FAX: 03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニング センター内)

■レクチャーシリーズ

「マルチに語るマルチなウォーホル」

レクチャーシリーズ(全8回予定)では、様々なジャンルを縦横無尽に横断したアンディ・ウォーホルの多面性と創造性に光を当てます。絵画論、実験映画やビデオ作品、ポップカルチャーなど各方面の専門家を招き、様々な視点からウォーホルの芸術を再検証します。

第1回「“アンディ・ウォーホル展：永遠の15分”について」 *日英同時通訳付

本展を担当したアンディ・ウォーホル美術館と森美術館のキュレーターが、世界を魅了し続けるアンディ・ウォーホルの芸術と展覧会の見どころを紹介します。本展主旨の紹介に加え、アンディ・ウォーホル美術館キュレーターのニコラス・チェンバース氏が、「完全な不正確：ウォーホル作品にみる媒体と技法(Exactly Wrong: Medium and Technique in the work of Andy Warhol)」と題し、美術大学在籍時から1950年代の商業デザイナーの時代、そして60年代から80年代までに制作された様々な作品を通して、媒体や技法のアプローチを検証します。

出演：ニコラス・チェンバース(アンディ・ウォーホル美術館ミルトン・ファイン・キュレーター)、
近藤健一(森美術館キュレーター)

日時：2014年2月1日(土) 19:00 - 20:30(開場18:30)

会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員：150名(要予約) **料金**：一般1,000円 MAMCメンバー無料

主催：森美術館 **助成**：アメリカ合衆国大使館 **協力**：アカデミーヒルズ



ニコラス・チェンバース

第2回「実感！はじめての<ウォーホル>」 *日本語のみ

アンディ・ウォーホルの作品はよく知っているけど、ウォーホルとは一体何だったの？多方面にわたる活動やメディアへの露出により、ウォーホルは様々なイメージをまとい、語られてきました。ウォーホル概論書の著者である林卓行氏が本展担当キュレーターと共に、展示室内で制作の歩みをたどりながらアーティストとしての全体像について紹介します。

出演：林卓行(玉川大学芸術学部准教授) **聞き手**：近藤健一(森美術館キュレーター)

日時：2014年2月19日(水) 19:00 - 20:30

会場：森美術館展示室内(六本木ヒルズ森タワー53階)

定員：40名(要予約) **料金**：無料(要展覧会チケット)



林卓行

第3回「“タイム・カプセル”と日本」 *日英同時通訳付

生活のなかで目にする様々なものを600以上ものダンボール箱に保管したウォーホル。《タイム・カプセル》は、彼の内実を垣間見ることのできる貴重な資料であるだけでなく、そこに含まれる記事や写真から、日本への興味を読み取ることができます。同資料の調査を手がけるマット・ウォービカン氏が、ウォーホルの人生の中でも重要な出来事に関連する《タイム・カプセル61番》に焦点を当てて語るとともに、日本に関連する資料を紹介します。

出演：マット・ウォービカン(アンディ・ウォーホル美術館チーフ・アーキヴィスト)

日時：2014年2月22日(土) 14:00 - 15:30(開場13:30)

会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員：150名(要予約) **料金**：一般1,000円 MAMCメンバー無料

主催：森美術館 **助成**：アメリカ合衆国大使館 **協力**：アカデミーヒルズ



マット・ウォービカン

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニングセンター内)

第4回「ウォーホルと死のイメージ」 *日本語のみ

1960年代の絵画を中心に、「死と惨事」シリーズと西洋美術におけるメメント・モリやヴァニタス画との関係、その後のウォーホル作品に見られる死の影について、日本におけるウォーホル研究の第一人者である宮下規久朗氏が検証します。

出演：宮下規久朗(美術史家、神戸大学大学院人文学研究科教授)
日時：2014年2月24日(月) 19:00 - 20:30(開場18:30)
会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)
定員：100名(要予約) **料金**：一般1,000円 MAMCメンバー無料
主催：森美術館 **協力**：アカデミーヒルズ



宮下規久朗

第5回「“レイン・マシン”について」 *日英逐次通訳付

1970年の大阪万国博覧会に展示された《レイン・マシン》はその後破棄され、オリジナルが現存しない幻の大作です。本展ではその再制作版を展示しますが、本作所蔵者であり作品誕生に深く関わった、ロサンゼルス・カウンティ美術館名誉シニア・キュレーターのモーリス・タックマン氏が同作について語ります。

出演：モーリス・タックマン(ロサンゼルス・カウンティ美術館名誉シニア・キュレーター)
日時：2014年3月1日(土) 17:30-18:30(開場17:00)
会場：「アンディ・ウォーホル・カフェ」(六本木ヒルズ森タワー52階 展望台 東京シティビュー内)
定員：60名(要予約) **料金**：無料(要展覧会チケット)
助成：アメリカ合衆国大使館 **主催**：森美術館

モーリス・タックマン
Ed Glendinning**第6回「ファクトリーのウォーホル」** *日本語のみ

作品制作が行われただけでなく、政治家からロック・ミュージシャンまで様々な人々が集まったウォーホルのスタジオ「ファクトリー」を中心に、映画や音楽、パフォーマンスに広がる多面的な活動の広がりとその思想を、カルチュラル・スタディーズ研究者の毛利嘉孝氏が検証します。

出演：毛利嘉孝(東京藝術大学准教授)
日時：2014年3月17日(月) 19:00 - 20:30(開場18:30)
会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)
定員：100名(要予約) **料金**：一般1,000円 MAMCメンバー無料
主催：森美術館 **協力**：アカデミーヒルズ



毛利嘉孝

第7回「ウォーホルと映像」 *日本語のみ

ウォーホルは、美術家を廃業して映画に専念すると宣言したほど、1960年代半ばには熱心に映画制作に取り組み、《エンパイア》や《スリープ》(共に1963年)といった名作を残しました。その活動の全貌を考える上で無視することのできない、知られざるウォーホルの映像作品を、ウォーホル映像研究の第一人者、西村智弘氏が読み解きます。

出演：西村智弘(映像評論家、美術評論家)
日時：2014年3月17日(月) 19:00 - 20:30(開場18:30)
会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)
定員：100名(要予約) **料金**：一般1,000円 MAMCメンバー無料
主催：森美術館 **協力**：アカデミーヒルズ



西村智弘

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
 TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
 〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニングセンター内)

第8回「アメリカのポップ、世界のポップーアンディ・ウォーホルと田名網敬一を中心に」 *日本語のみ

1960年代、アメリカの大衆文化やポップアートに触発されたアーティスト達は、世界各地でポップ的な造形言語を取り入れた作品制作を行いました。戦後美術史研究者、池上裕子氏が、ウォーホル作品とポップアートの世界的な広がり起点として、田名網敬一など日本人作家による独自のポップアートの展開について紹介します。

出演：池上裕子(神戸大学国際文化学研究所准教授)

日時：2014年4月26日(土) 14:00-15:30(開場13:30)

会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員：100名(要予約) **料金**：一般1,000円 MAMCメンバー無料

主催：森美術館 **協力**：アカデミーヒルズ



池上裕子

プレゼント企画

シンポジウムおよびレクチャーシリーズ(全8回)に、5講座以上ご参加のお客様へ、プレゼント企画を実施。スタンプを5つためた方、先着30名様に「アンディ・ウォーホル展オリジナルA4ダブルファイル3点セット」を差し上げます。*詳細は森美術館ウェブサイトをご確認ください。

■スペシャルトーク**六本木アートナイト2014****「日本で制作されたウォーホル作品：《Kiku》をめぐる物語」** *日本語のみ

1974年、東京と神戸の大丸デパートでの個展で注目を浴びたウォーホル。1983年には日本を代表する花として菊を主題とした《Kiku》を発表しました。この作品の制作や日本におけるウォーホル展開催に携わった3者を迎え、作品誕生の秘話や日本におけるウォーホルの受容について紹介します。

出演：綿貫不二夫(「ときの忘れもの」ディレクター)、根本寿幸(GALLERY360°ディレクター)、石田了一(摺師、石田了一工房代表)

日時：2014年4月19日(土) 20:00-21:30

会場：「アンディ・ウォーホル・カフェ」(六本木ヒルズ森タワー52階 東京シティビュー内)

定員：60名(要予約) **料金**：無料(要観覧会チケット) **主催**：森美術館

パブリックプログラムに関するお問い合わせ：森美術館学芸部パブリックプログラム

TEL:03-6406-6101(月~金:11:00~17:00) FAX:03-6406-9351 E-mail:ppevent-mam@mori.co.jp

プレスリリース お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田

TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail:warhol2014@ypcpr.com

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニングセンター内)

関連情報

■ 音声ガイドに、菊地凜子が登場

本展の音声ガイドに、映画の本場ハリウッドで女優として活躍する菊地凜子さんが特別出演。現代のアメリカのセレブリティや映画スターとも親交のある、菊地さんならではの切り口で、アンディ・ウォーホルの魅力や、当時の華やかなセレブリティの世界、スクリーンテストなどについて語っていただきます。

特別出演：菊地凜子 **ナレーター：**小原雅一 **解説件数：**全23件 **解説時間：**約30分 **料金：**500円(税込)



菊地凜子(女優)

1999年、日本映画「生きたい」で映画デビュー。

2006年のアレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥ監督の映画「バベル」で米アカデミー賞にノミネートされ国際的な注目を集めてから、「ブラザーズ・ブルーム」(2008年)、「ナイト・トーキョー・デイ」(2009年)など数々の外国映画に出演。近年の代表作には、村上春樹のベストセラー小説を映画化した「ノルウェイの森」(2010年)や、キアヌ・リーブスと共演した「47Ronin」(2013) などがある。また、チャンネル、イブ・サンローラン、トムフォードの広告塔として起用されるなど、モデルとしても活躍の幅を広げている。

■ 展覧会カタログ

執筆者：近藤健一、土屋隆英、田籠美保、

マット・ウォーピカン(アンディ・ウォーホル美術館チーフ・アーキヴィスト)

サイズ：A4変形版(28.2×21cm)

頁数：312頁 **言語：**日英バイリンガル

価格：2,500円(税別)

制作／発行：森美術館／美術出版社

発売日：2014年1月31日



■ 展覧会オリジナルグッズ

「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」の特設ショップが、展覧会場内に登場します。アンディ・ウォーホルのアートワークがデザインされた、雑貨やタオル、バッグなどの日用品はもちろんお土産としても嬉しいお菓子まで、会場内でしか手に入らない限定商品や先行販売商品なども多数揃えています。

※オリジナル商品は、一部を除き2月中旬以降に順次販売予定。



アンディ・ウォーホル × ROOTOTE

「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」開催を記念して、トートバッグ専門ブランドROOTOTE(ルートート)より、展覧会場でしか手に入らない限定商品や先行販売商品が登場。また、オリジナルのトートバッグを作ることができるワークショップも開催します。

● 会場限定ワークショップ 「アンディ・ウォーホル×ROOTOTE FACTORY」

ウォーホルのスタジオ“ファクトリー”さながらにオリジナルのトートバッグを作ることができるワークショップ。ウォーホルの言葉をプリントしたトートバッグ4種とウォーホルのアートワーク8種から、それぞれ1種ずつ選択が可能。その場でプリントしお渡しいたします。

価格：トートバッグ 各2,000円(税抜)、オーナメント 各800円(税抜) **サイズ：**W30×H36cm

期間：2月1日(土)～2月9日(日)、3月21日(金・祝)～3月30日(日)、4月25日(金)～5月6日(火・休)

時間：展覧会の営業時間に準ずる

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田

TEL:03-6820-8105 FAX:03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニング センター内)

● 会場限定商品

Andy Warhol × ROOTOTE アタッシュ 1種 2,800円(税抜)
 Andy Warhol × ROOTOTE ジャイアントサイズ 1種 4,800円(税抜)
 Andy Warhol × ROOTOTE “like a scarf” 2種 各4,800円(税抜)
 Andy Warhol × ROOTOTE タイニールー 9種 各1,600円(税抜)

● 先行販売商品

Andy Warhol × ROOTOTE ルー・ガービッジ (30リットルサイズ) 4種
 各1,200円(税抜)

お問い合わせ：株式会社 スーパープランニング 広報室 担当：郡山
 TEL: 03-3780-4738 E-mail: kooriyama@sp-co.co.jp



アンディ・ウォーホル × Moleskine

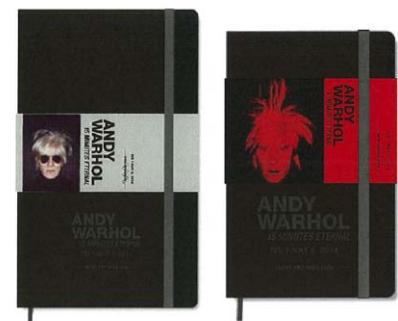
15 Minutes Eternal: Moleskine Celebrates Andy Warhol

「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」の開催を記念し、イタリアの手帳ブランドMoleskine (モレスキン)の限定商品が発売されます。アンディ・ウォーホルとMoleskineのコラボレーション商品が手に入るのは、本展のみとなります。

● Andy Warhol Special Edition Notebook

(ラージ) 価格：3,600円(税抜) サイズ：W130×H210mm
 (ポケット) 価格：2,500円(税抜) サイズ：W90×H140mm

※2月中旬発売予定



■ 東京シティビュー「Andy Warhol Café」(アンディ・ウォーホル・カフェ)

六本木ヒルズ展望台 東京シティビューでは、「森美術館10周年記念展 アンディ・ウォーホル展」の関連企画として2014年3月1日(土)から5月6日(火・休)まで展望回廊内に位置するカフェ「マドラウンジ スパイス」にてアンディ・ウォーホル展仕様のカフェ、『Andy Warhol Café』(アンディ・ウォーホル・カフェ)をオープンいたします。この期間、カフェのインテリアはアンディ・ウォーホルの作品にちなんだ特別仕様となり、海拔250mの眺望と共に、アンディ・ウォーホルの作品の世界観をお楽しみいただけます。通常のカフェ・メニューに加え、アンディ・ウォーホル展とのコラボレーション・メニューも登場します。

期間：2014年3月1日(土) - 5月6日(火・休)

営業時間：月・水～日曜日 11:00～23:00(LOフード:22:00、ドリンク22:30)

火曜日 11:00～17:00(LOフード16:00、ドリンク16:30)

場所：東京シティビュー マドラウンジ スパイス (六本木ヒルズ森タワー 52階)

入場料：アンディ・ウォーホル展、もしくは展望台入場料(一般1,500円)が必要



プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
 TEL: 03-6820-8105 FAX: 03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
 〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F (ユース・プランニング センター内)

■ アンディ・ウォーホルが自らペイントしたBMWアート・カーが登場

アンディ・ウォーホル、フランク・ステラ、ロイ・リキテンシュタインなどアート界の名だたるアーティストが手がけてきたBMWアート・カー。1975年から現在までに17台の作品が発表され、ユニークなコレクションとしてその名をひろめています。このコレクションからアンディ・ウォーホルが自らペイントを施したBMW M1 Group 4 Racing Versionを展示する他、制作風景を記録した貴重な映像を公開します。アート・カーは来場者が自由に写真撮影することができます。

期間：2014年2月1日(土)～5月6日(火・休) 時間：10:00～22:00(火曜日 - 17:00)

料金：展覧会チケット、もしくは東京シティビューの入場料が必要

場所：六本木ヒルズ森タワー52階 センターアトリウム

協力：ビー・エム・ダブリュー株式会社

関連ウェブサイト：

http://www.bmw.co.jp/jp/ja/_imported_external_contents/insights/artcar/main.html

お問い合わせ：ビー・エム・ダブリュー株式会社 広報室 03-6259-8025



© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Artists Rights Society (ARS), New York

■ シアター・イメージフォーラムで「アンディ・ウォーホル 映画回顧展2014」を開催

アンディ・ウォーホルの代表的な映画13本の上映を、シアター・イメージフォーラム(東京・渋谷)にて開催します。日本での大規模なウォーホル作品の上映会は、約20年ぶり。全てオリジナル・フォーマットである16mmフィルムで、作品を鑑賞することができる貴重な機会となります。

会期：2014年2月15日(土)～2月28日(金) 会場：シアター・イメージフォーラム

お問い合わせ：イメージフォーラム 03-5766-0116



《チェルシー・ガールズ》
1966年/16mm/225分/カラー+BW
©2013 The Andy Warhol Museum, one of the Carnegie Museums of Pittsburgh. All rights reserved.
画像提供：イメージフォーラム

■ グランド ハイアット 東京 コラボレーション

「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」会期中の限定企画として、展覧会チケット付の宿泊プランや、特別ランチメニューを提供します。

● American Pop Art スペシャルメニュー

「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」の開催に合わせ、スペシャルランチセットが登場。オーク ドアバーガーに、トマトスープ、デザートはアップルパイまたはNYチーズケーキからお選びいただけます。かつてウォーホルが画題として描いた、コカ・コーラのボトル付き。

期間：2014年2月1日(土)～5月6日(火・休) 時間：11:30～14:30(土日祝 - 15:00)

場所：オーク ドア(グランド ハイアット 東京6階) 料金：3,800円(税込・サービス料別) ※展覧会チケット付

● American Pop Art Stay

展覧会期間中、「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」のカタログとチケットが付いた宿泊プランを提供します。

期間：2014年2月1日(土)～5月5日(月・祝)

お問い合わせ：グランド ハイアット 東京 マーケティング コミュニケーションズ TEL: 03-4333-8882 FAX: 03-4333-8893

プレスリリース

お問い合わせ 「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」広報事務局 担当：池袋、高橋、原田
TEL: 03-6820-8105 FAX: 03-3499-0958 E-mail: warhol2014@ypcpr.com
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F(ユース・プランニング センター内)